

科目名	くらしと経済				担当	小池 明		
形態	講義	単位数	2	開講時期	1年後期	実務経験	総合商社で財務業務の実務経験有	
必修	—					ナンバリング	KC102	DPとの関連 (幼) 1 (総) 1
授業概要	自分の周辺で起きている身近な経済事象を取り上げ、その意味を理解することから発展し、経済学的な視点、考え方を養うとともに、私生活、職業においても経済の知識、手法がどのように生かせるかを学ぶ。特に、国、社会が経済と如何に関わっているか、経済が政治を動かす、政治が経済を動かすという社会の営為に就いても解き明かし、主権者としての自覚、責任の意識も涵養に繋げる。							
到達目標 学習成果	身近な経済事象について原因、推移、延いてはそれが自らの生活にどう影響するのか、概括的な説明ができること、更に事象によっては将来の動向について選択肢を挙げて予測もできる程度の経済的な物の見方を身につける。又、経済活動に不可欠な要素として Risk、信用の概念が如何に経済行動を支配しているかに就いての理解を持てる様にする。							
授業計画	回	内容						
	1	様々な経済活動、経済事象①	身近な経済事象の諸々を取り上げ、その意味と個別事象間の関連性を理解し、経済活動についての概念を掴む。現象だけでなく、その起因した処に注目し、因果関係を“自ら”考える					
	2	” ②						
	3	” ③						
	4	” ④						
	5	” ⑤						
	6	経済学、経済学史	経済学の流れ(尚、第6講以下の講義の順序は変更することが有り得る)					
	7	政府(国)の役割	経済活動における様々なプレイヤーの役割					
	8	企業、家計の役割						
	9	税について	税に関する概括的な理解					
	10	会社とは?	会社の成り立ち、形態、活動など					
	11	金融とは?運用と調達①	国、会社、個人の借金やお金の使い道					
	12	” ②						
	13	信用、信用創造とは?	経済活動における「信用」、「与信」とは?					
	14	投資、リスクとリターン	様々な投資活動とその評価					
15	貿易	国際間(国境越え)のもの、サービスの取引						
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・経済、金融についての全般的な理解とそれを他人に説明できるか ・自ら経済的な事象を選択し、それについて論理的な論文にまとめられるか 							
評価方法	授業参画態度 50% レポート 50% ・授業での討論、意見発表(小メモの提出を含む)などの参画度 50%、期末に提出するレポート(自らテーマを選択し、経済学的な考察を加える) 50%とし、総合的に評価する。							
フィードバック 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小メモを課した場合は、講義中に講評を行う ・期末レポートに就いては、評価・採点后に各自のレポートに講評を付して返却する 							
アクティブ ラーニング	各講義に先立って受講者各自で事前調査したことを発表すること、或いは講義中に採り上げたテーマに就いて講義中の対話、討論の時間を設ける。							
教科書	「日本がわかる経済学」飯田泰之著(NHK出版) その他、適宜、経済トピックスの記事など資料を配布する。							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『アメリカの高校生が読んでいる経済の教科書』山岡道男・浅野忠克編著(アスペクト文庫、648円+税) ・『思考をみがく経済学』飯田泰之著(NHK出版 1200円+税) ・その他経済学の初歩的な入門書(特に指定しないが、体系的に一冊を読み通すことを奨める) 							
履修条件	<u>・授業参画の意味を受講者全員が自覚し、講義中に指名された者は自らの意見などを必ず発言すること。</u> <u>・授業では教科書の逐一解説をするのではなく、質問も含めて受講者が積極的に発言し、活発な討論を通して、知識や考え方を練り上げることを目標とする。従って他者の発言に真摯に耳を傾け、且つ自らも積極的に議論に参加する姿勢が求められる。良い質問は他者の良い意見を引き出す誘因となるので大歓迎である。従って、傍観的・受動的な受講態度は厳に慎まれない。</u>							
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義のテーマについて必ず事前に知識を持って臨むこと(必ずしも深い知識は要求しない)。教科書は関連箇所を事前に読んでおくこと。インターネットなどで知識を仕込むことも大いに奨励する。 ・普段からできるだけ新聞に目を通し、世の中で今起きていることに興味と関心を持ち続けてほしい。そしてそれが自らの生活(将来も含めて)にどう関わるのかを関連づける癖をつけてほしい。 ・授業では、かみ砕いて時々のトピックスもとりあげ、それが私たちの生活にどう関わってくるのかを皆で討論しながら理解に結びつけるようにしたい(難解な数式は用いない。) 							
オフィスアワー	講義日は原則、終日短大執務室に在席している。Mail Address : a-m-koike@uedawjc.ac.jp							